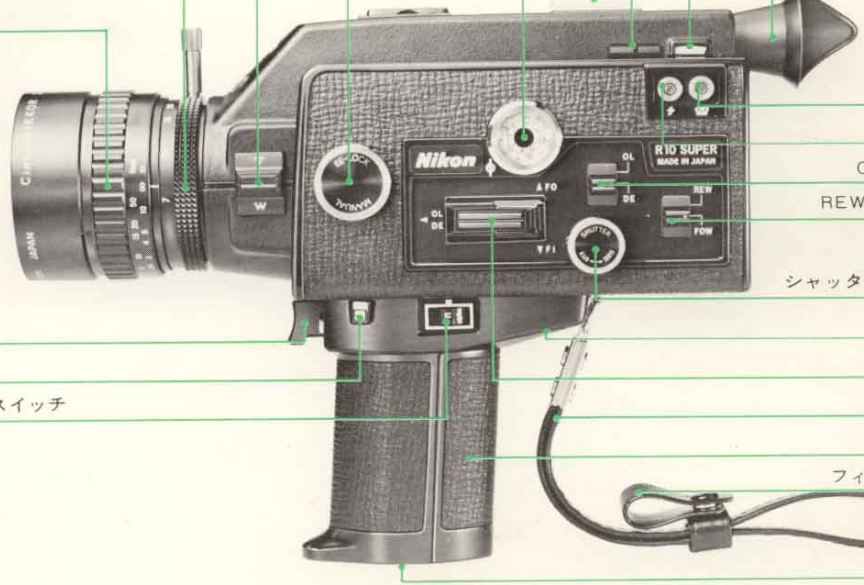
Nikon

R10

SUPER ZOOM

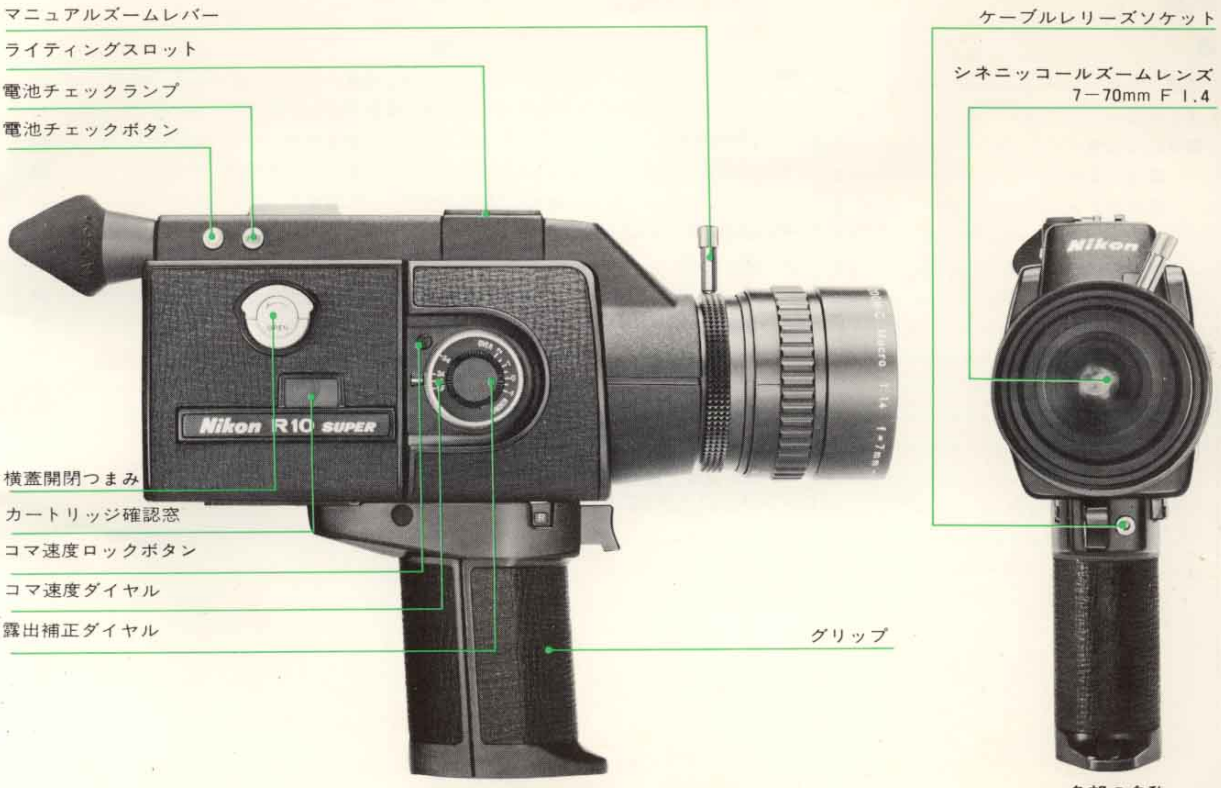
使用説明書

各部の名称



フィルムカウンター
アクセサリーシュー
アイピースシャッターつまみ
視度調節リング
アイカップ
テレコソケット
シンクロソケット
OL-DE切替えつまみ
REW-FOW切替えつまみ
シャッター開角調節ダイヤル
リモコンソケット
トリックレバー
リストストラップ
電池室
フィルターキーホルダー
三脚ねじ穴

EEロック・マニュアルダイヤル
パワーズームスイッチ
ズームリング(マクロリング兼用)
距離リング
シャッターボタン
L-Rボタン
ズーム速度切替えスイッチ


マニュアルズームレバー
ライティングスロット
電池チェックランプ
電池チェックボタン
横蓋開閉つまみ
カートリッジ確認窓
コマ速度ロックボタン
コマ速度ダイヤル
露出補正ダイヤル
グリップ
ケーブルレリーズソケット
シネニッコールズームレンズ
7—70mm F 1.4
Nikon R10 SUPER
Nikon

目次

各部の名称……2
はじめに……5
電池の入れ方……6
　電池の入れ方……6
　電池のチェック……6
フィルムの装填……7
　フィルムの入れ方……7
　フィルムの終了……7
カメラの構え方……7
視度調節とアイカップ……8
ピント合わせ……8
　マクロ撮影……9
　ピント送り……9
ズーミング……10
　パワーズーミング……10
　マニュアルズーミング……10
コマ速度の切替え……11
　1コマ撮影……11
シャッター……12
　シャッターボタン……12
　L-Rボタン……12
　ケーブルレリーズソケット……12
　リモートコントロール撮影……13
フィルムカウンター……13
絞り値の確認……14
　EEロックマニュアルダイヤル……14
　被写界深度……15
　露出補正ダイヤル……16
　シャッター開角度と露出……18
　シャッター開角調節ダイヤル……18
　露出補正……19
　コマ速度と露出調節……19
アイピースシャッターの開閉……19
内蔵フィルター……20
同時録音……20
撮影の前に……20
ご注意……21
撮影テクニック……22
　フェーディング……23
　オーバーラップ……24
　二重撮影……26
　逆転撮影……27
ストロボ撮影……28
被写界深度表……30
カメラの手入れ……33
アクセサリー……34
仕様……34
保証書について……35

はじめに

このたびはニコンR10スーパーズームをお買いあげいただきありがとうございました。カメラには「保証書」と「ご愛用者アンケートカード」を添付してありますのでご確認ください。

このカメラは、最高級の8mmシネとして各種の自動機構を備えており、簡単な操作により多彩な撮影テクニックを駆使していただけます。とはいえ、よい映画をつくるには、カメラの機能をよく知ること、そしてよく慣れることが大切です。撮影に入る前には、この説明書をよくお読みのうえ、各部の操作を十分にご理解ください。

つねに適切な取扱いと手入れをされて、このカメラをいつまでもご愛用くださるようお願い申しあげます。

電池の入れ方

フィルム送り用、ズーミング・フェーディング用および露出メーター用の電源として、単3乾電池を6本使用します。(電池は別途にお買い求めください。)

〈電池の入れ方〉

電池はグリップ内の電池室に入れるようになっていますので、まず硬貨などを利用して蓋止めねじをゆるめ、電池カセットを取り出してください。次に、電池をカセット内の図に合わせて、⊕⊖の位置をまちがえないように入れます。新しい電池一組で、普通、約15本のカートリッジが撮影できます。

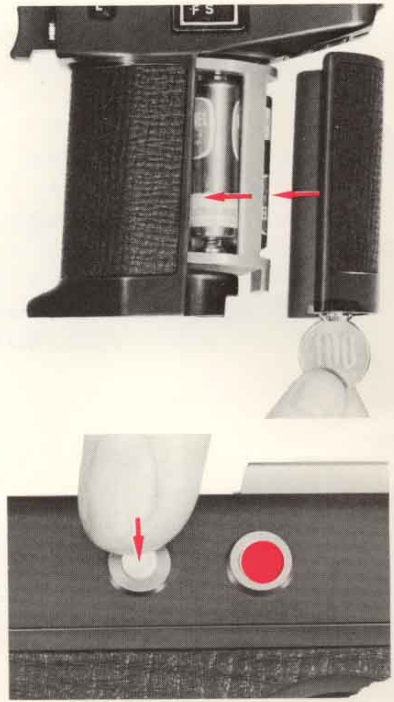
※電池の⊕⊖をまちがえて入れると、正常に作動しないばかりでなく、破裂したり、漏液して、故障の原因にもなりますので特にご注意ください。

※長期間カメラを使用しない時は、電池を抜きとって、湿気のない場所に保管してください。

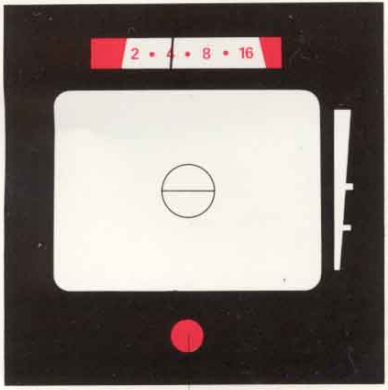
※長時間撮影をする時には、予備の電池を用意しておくと便利です。

〈電池のチェック〉

接眼部のすぐ右側面にある電池チェックボタンを押してください。電池チェックランプがつけば、電池はまだつかえます。ランプがつかなくなりましたら、6本全部を新しい電池に交換してください。



フィルムの装塡（そうてん）



終了表示マーク

フィルムは約15m(50ft)のスーパー8カートリッジをご使用ください。カートリッジ1本では、標準速度(毎秒18コマ)で、約3分20秒間の撮影ができます。

《フィルムの入れ方》

まず横蓋開閉つまみを起こし、横蓋開閉つまみに印してある矢印の方向に回して蓋を開けます。カートリッジはラベルのある方を手前(蓋側)にし、切り欠きがついている側をレンズの方向に向け、斜め後方から挿入し、カチッと音がするまで押してください。ASA感度は、カートリッジを入れることによって自動的にセットされます。

《フィルムの終了》

ファインダー内の下方に赤丸(フィルム終了表示)が見え、フィルムカウンターが50を指していたら、フィルムが終了したことを表わしています。横蓋を開けてカートリッジを取り出してください。カートリッジ開口部のフィルム面には、"EXPOSED"(撮影済み)の文字が表示されるようになっています。

※フィルムを装塡しないで作動させますと、サーボEEがアンバランスな状態になり、電池が早く消耗しますのでご注意ください。

カメラの構え方

右手はリストストラップを通してグリップを握り、人差し指をシャッターボタンにかけます。左手は下からカメラを支えるようにして持ち、ピント合わせなどを行ないます。(パワーズームスイッチ、トリックレバーなどの操作は左手の親指で行なうと、安定します)手持ち撮影の際は、グリップを握った手のひじを身体につけ、無理のない姿勢をとってください。なお三脚を利用してパンニング等を行なうときも、片手でグリップを握るようにしてください。

視度調節とアイカップ

被写体に正しくピントを合わせるためには、ファインダー接眼レンズの視度を自分の視力に合わせておくことが必要です。視度調節を行なうには、ファインダーを覗きながら、スプリットプリズムの中央横線がはっきりと見えるまで、視度調節リングを回します。

視度調節を、一度行なえば、同じ人が使うかぎり再調整の必要がありません。

〈アイカップ〉

不要な光をさえぎるアイカップは、左右どちらの眼でも覗けるように手で回すことができます。なお、眼鏡をかけている方は、アイカップを折返してご使用ください。

ピント合わせ

まず、被写体主要部がファインダースクリーンの中央部にくるようにカメラを構え、ズームリングを70mmにセットします。次に距離リングを回して、中央のスプリットプリズム横線で上下に分割された像が一つの像につながるように合わせます。これにより正確なピント合わせができます。

広角で撮影する場合にも、ズームリングを70mmにセットしてピント合わせを行ない、それからズームリングを広角の方に回して希望する構図をお選びください。

ピントが合っていないとき

ピントが合ったとき

〈マクロ撮影〉

R10スーパーは、焦点距離のほぼ全域で(60～70mmの範囲を除く) マクロ撮影に切替えることができ、広角側ではアクセサリーを使うことなく、レンズ面までの超接写が行なえます。(フィルム面指示標Φより170mm) マクロへの切替えは、 距離リングを∞にセットし、焦点距離が7～60mmの範囲のときにズームリングを前方にスライドさせれば、

マクロ撮影用の距離目盛(橙色)が出てきます。ピント合わせは距離リングではなく、ズームリングを回してスプリット像を合致させて行ないます。橙色の距離目盛数字は、距離リングを∞にしたときの概略値ですのでご留意ください。

※マクロ撮影の際には、カメラぶれが特に目立ちますので、カメラは三脚などでしっかり固定して撮影してください。また、マクロ撮影では被写界深度が浅くなりますので、視度調節およびピント合わせは特に入念に行なってください。

〈ピント送り〉

近くの被写体から遠くの被写体へ、あるいは逆に遠くの被写体から近くの被写体へピントを移すことにより、ユニークな画面づくりが楽しめます。

●方法 (近くの被写体から遠くの被写体にピント送りをする場合)

1. カメラを三脚などに固定して、まず距離リングで遠くの被写体にピントを合わせます。
2. 距離リングを動かさないようにして、ズームリングを前方にスライドさせます。
3. ズームリングで近くの被写体にピントを合わせます。
4. 近くの被写体の撮影をスタートします。
5. シャッターボタンを押したまま、ズームリングを手前にスライドさせます。これにより近くの被写体から遠くの被写体にピントが移ります。
6. そのまま、遠くの被写体を撮影します。

※カメラブレを防ぐために、カメラは必ず安定性のある三脚にしっかり固定して、手でカメラを支えるようにしてください。

※ピント送りは被写界深度が深くなるほど、ぼけの効果が出しにくくなります。

ズーミング

R10スーパーは、焦点距離7.0mm(広角)から70mm(望遠)までのズームレンズを備えており、パワーズーミング(電動)マニュアルズーミング(手動)のどちらでも行なうことができます。

〈パワーズーミング〉

ファインダーを覗きながら、パワーズームスイッチをTの方向へ押し上げるとズームアップ(広角→望遠)を、またWの方向へ押し下げるとズームダウン(望遠→広角)を行なうことができます。スイッチを離すか、あるいはズーミングの両端に行くと、ズーミングはストップします。ズームリングには目盛が付いており、指標に合った目盛の数値を読むことにより、焦点距離を知ることができます。ズーミング速度は、高速・低速の両速度を選ぶことができます。白い指標にズーム速度切替えスイッチのFを合わせれば高速に、またSを合わせれば低速になります。広角↔望遠のズーミング時間は、F で約4秒～約6秒、S で約8秒～約17秒です。

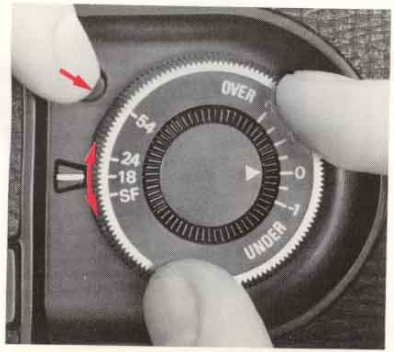
※ 電池の電圧が低いとズーミング速度は遅く不安定になり、特にSの場合は極端になります。そのような際には、すぐに新しい電池とお取替えください。また、最大焦点距離(望遠)で撮影する時には、できるだけ三脚を用いてください。

〈マニュアルズーミング〉

マニュアルズームレバーを回すことにより、手動ズーミングができます。このレバーの先端を引っぱれば、さらに15mm長くすることができ、いっそうスムーズな操作ができます。マニュアルズーミングは、焦点距離をあらかじめ正確にセットしたい時、ピント合わせで焦点距離を変える時、また急速なズーミングをして迫力を出したい時、さらに、近づく、あるいは遠ざかる被写体を大きさを変えずに撮りたい時などに使います。

コマ速度の切替え

コマ速度は、毎秒18、24，54コマおよび1コマ撮りにセットすることができます。
コマ速度を切替えるには、コマ速度ロックボタンを押しながら、コマ速度ダイヤルを回して希望する速度にセットします。
1コマ撮りの場合にはSFにセットします。その際、目盛の中間にはセットしないでください。露出は、コマ速度に合わせて自動的に変わりますので、たえず適正露出が得られます。



標準の撮影には18コマを、パンニングになめらかさを与えたい場合などには24コマを、またスローモーションによりスポーツのフォームの分析などをする場合には54コマをお使いください。

※54コマのカラ回しは、カメラが痛む原因となりますので、避けてください。

〈1コマ撮影〉

1コマ撮りは、アニメーション撮影や、開花シーンなどの微速度撮影をする時などにお使いください。
アニメーション撮影は、静物の被写体を1コマごとにほんの少しづつ動かして行ないます。また、雲などのように動きの遅いものを1コマ撮りして、標準速度で映写しますと、実際より速く動いて見えます。
1コマ撮りの場合にも、EE機構は作動します。そのためにはシャッターボタンの2段操作を心がけ、ファインダー内の絞り指針が作動・停止するのを確認してから2段目を押してください。(P12参照)

※三脚やケーブルレリーズ等を用いた際、接眼レンズから顔を離して撮影する時には、接眼レンズから光が入り込まないよう、アイピースシャッターを閉じてください。(P20参照)

※1コマ撮影の時の単三乾電池の寿命はフィルム2—3本ですから、その都度新しい電池と交換して下さい。
(但し標準撮影18コマの時はフィルムは約15本撮影できます)

シャッター

《シャッターボタン》

シャッターボタンは、2段作動式になっています。ボタンを軽く押すと最初の1段でEE機構が作動し、さらに押すと2段目でフィルムが送られ、撮影が開始します。ボタンを離せば、フィルム送りはすぐに止まります。

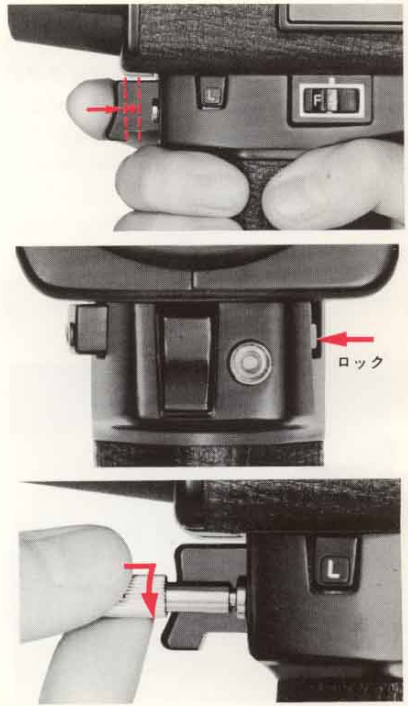
※シャッターボタンを軽く押して、最初の一段でEE指針が停止するのをまず確認してから、二段目を押して撮影をしてください。
一気に二段目まで押してしまうと、カットの始めに露出オーバーまたはアンダーのコマが数コマできることがありますので注意してください。

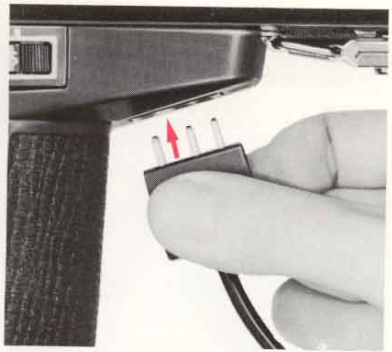
《L-Rボタン》

L-RボタンのL側を押し込むと、シャッターボタンはロックされます。撮影しない時にロックしておけば、あやまってシャッターボタンを押しても、フィルム送りを防ぐことができます。また、シャッターボタンを押しながらロックをすれば連続撮影状態のままに固定することができます。これにより、撮影者自身を画面に入れて撮影することができます。ロックはR側を押すことによって解除され、フィルム送りは停止します。

《ケーブルレリーズソケット》

レリーズは、普通のケーブルレリーズを使用してください。レリーズによる撮影は力メラを三脚に固定して、接写、パンニング、フェーディング、コマ撮りなどの撮影をする際にお勧めします。





《リモートコントロール撮影》

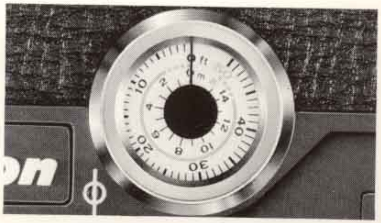
シャッター機構はエレクトロマグネチック方式ですので、リモコン装置や無線装置を取付ければ、離れた場所からでも撮影することができます。

これにより、撮影者自身が画面に入ったり、あるいは動物の生態撮影など、撮影者が近よれない場合の撮影を行なうことができます。

※これらの撮影の際には、アイピースシャッターを閉じてください。(P20参照)

フィルムカウンター

フィルムカウンターはメートル、フィート併用の目盛順算式で、目盛数字は撮影されたフィルムの長さを示すようになっています。カウンター指針が、目盛の両端から1.5m(5フィート)の間を指している時、巻き戻しはしないでください。カウンターはカートリッジを取り出すと自動的に0にもどります。また、目盛の最後のEはEND(終了)の意味を表わします。撮影の途中でカートリッジを取り出す時には、カウンターの目盛を読取り、カートリッジにメモしておくようにしてください。再びそのカートリッジを使う時には、15m(50フィート)から前にメモした数値を引いた長さの目盛でフィルムは終了します。



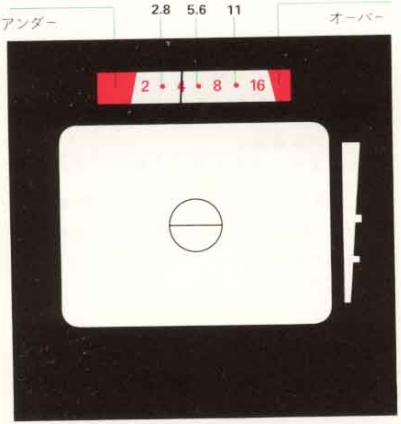
絞り値の確認

EEロック・マニュアルダイヤルを押し込んだままにしておくことにより、EE機構が働き、被写体の明るさ、使用フイルムのASA感度、コマ速度などに応じて、自動的に絞り値を決定します。

EE機構は、シャッターボタンを最初の1段まで押すと作動し、ファインダー内の指針で絞り値がわかります。(P.12参照) 光が強すぎると指針は右側の赤い警告マークまで振れて、露出オーバーを、また弱すぎると左へ振れて露出不足を示すようになっています。光が強すぎる場合にはASA感度の低いフィルムに換えるか、あるいはNDフィルターをご使用ください。また、光が弱すぎる場合には、人工光を使ってください。

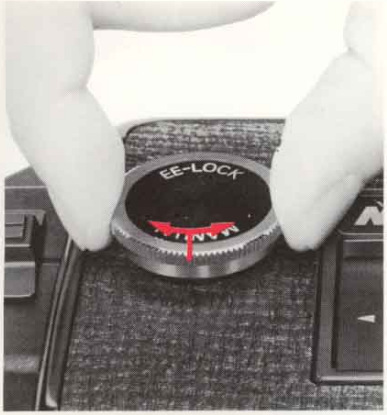
※シャッターボタンを離しても、指針はその位置にとどまっています。

※指針は一定の光量に達しないと作動しませんが、これは故障ではありません。



《EEロック・マニュアルダイヤル》

EEロック・マニュアルダイヤルをつまんで引き出した位置にセットすると、絞りはその位置でロックされます。また、そのままダイヤルを回すと、マニュアル絞り操作となります。これにより、EE機構が決めた絞り値に対して故意に露出オーバーや露出不足にしたり、あるいは特殊効果をねらったりすることができます。



〈被写界深度〉

被写体にピントを合わせた場合、その被写体の前後の一定範囲内は、十分に鮮明な像として撮影できます。その範囲のことを被写界深度といいます。

この範囲は絞りの大きさと被写体までの距離（撮影距離）及び焦点距離によって変わり、同じ焦点距離ではレンズを絞れば絞るほど、また被写体が遠ければ遠いほど深く、逆の場合ほど浅くなります。

なお、詳しい被写界深度は、P30、31、32の別表のようになります。

《露出補正ダイヤル》

主要被写体に対して、非常に明るい部分や非常に暗い部分が広い面積を占めていたり、あるいは、強い逆光等の撮影の際には、EE機構が測った絞り値を補正することにより、よい結果が得られます。逆光、あるいは主要被写体が明るいバックの前にある場合には、露出補正ダイヤルをOVERの方に回して絞りを開け、逆に主要被写体が暗いバックの前にある場合には、UNDERの方へ回して絞りを小さくします。一目盛は絞りの補正段数で一段を示し、あいだの白い線は½段を示します。ダイヤルは中間のどこにでもセットできます。なお、ダイヤル使用後は、必ず0にもどしておいてください。

2 • 4 • 8 • 16

2 • 4 • 8 • 16

《シャッター開角度と露出》

開角度可変式シャッターによる露出時間は、シャッター開角度と、シャッターブレードがフィルムを横切る時間とで決まります。もし横切る時間が一定ならば、シャッター開角度を変えるだけで、違った露出時間が得られるわけです。R10スーパーは、シャッター開角度が全開(160°)から全閉(0°)まで変わります。すなわち、シャッター開角度が80°になっていれば、コマごとの露出時間は、160°の時の半分ということになります。開角度の大きさは、ファインダー内の赤標示の動きでわかるようになっています。下の表は、三つの異なった開角度で、コマ速度別に露出時間を表わしたものです。

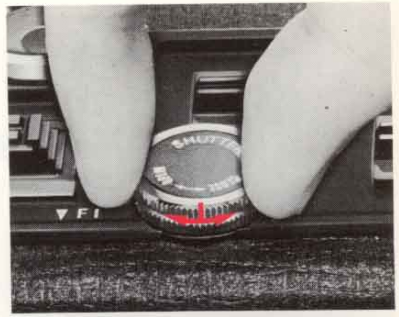
シャッター開角度は全開、½、¼、全閉の4段階にセットできます。これだけで、露出を調節することができます。

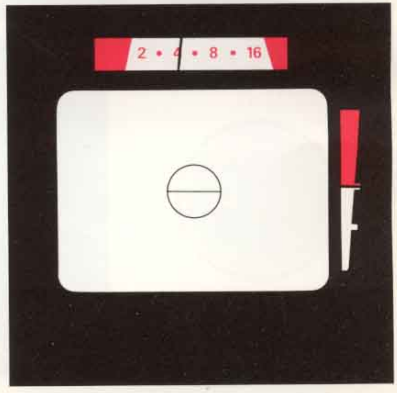
※シャッター開角度は、クリック以外は使用しないでください。

《シャッター開角調節ダイヤル》

シャッター開角度を狭くすると露出時間が短くなります。従って、動きの速い被写体を撮影する場合に起こる、被写体の動きによる画像のブレが少なくなり、シャープな画像が得られます。

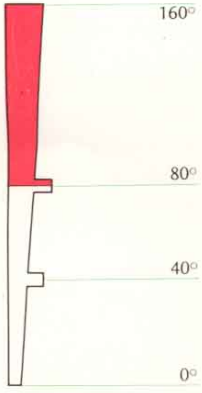
シャッター開角を閉じるには、シャッター開角調節ダイヤルを押し込んで反時計方向へ回し、ファインダー内の赤い表示の端を





シャッター開角度		(全開) 160°	(1/2) 80°	(1/4) 40°
コマ速度	18	1/40.5 秒	1/81 秒	1/162 秒
	24	1/54 秒	1/108 秒	1/216 秒
	54	1/121 秒	1/243 秒	1/486 秒

窓内のマークに合わせます。上の切込みは80°を、下の切込みは40°を示しています。表示窓が全部赤になれば、シャッターが全閉になったことを意味します。



〈露出補正〉

シャッター開角度を変えたら、絞りを変えて補正をしなければなりません。下の表が開角度に対する露出補正値です。露出補正ダイヤルを回して補正してください。

シャッター開角度	160°	80°	40°
露出補正値	0	＋1	＋2

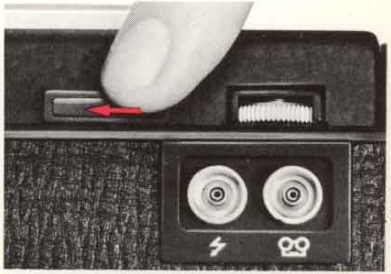
〈コマ速度と露出調節〉

露出時間はコマ速度に反比例しますので、コマ速度の変化によって露出も切替えられます。たとえば、毎秒18コマの際のコマごとの露出は、毎秒54コマの場合の3倍になります。

ただし、特殊効果をねらうとき以外には、このコマ速度による露出調節は行なわないでください。

アイピースシャッターの開閉

リモートコントロールをする場合、あるいは特殊撮影の時などに、接眼レンズから顔を離すと、そこから直射光が入り込むおそれがあります。そのような時には、アイピースシャッターのつまみを前方(レンズの方向)へスライドさせてください。



内蔵フィルター

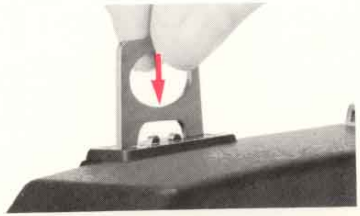
スーパー8フィルムは一般に人工光用のカラーフィルムになっています。そこで、屋外の自然光で撮影するためにはタイプAフィルターをかける必要があります。しかし撮影は通常、屋外で行なわれるため、このカメラには始めからフィルターが内蔵されています。従って、人工光を使って屋内で撮影する場合は、付属のフィルターキーをカメラ上面のライティングスロットに差し込んでください。自動的にフィルターが解除されるようになっています。なお、市販のコダックタイプのブラケットを持ったスーパー8ムービーライトをカメラに差し込めば、自動的に内蔵フィルターがはずれるようになっています。

フィルターキーを使わないときは、フィルターキーホルダーにとめておいてください。

※エクタクローム160タイプGフィルムを使用するときは、自然光の場合も人工光の場合もともにフィルターキーを差し込まないで撮影します。また、露出補正も必要ありません。フィルターキーを差し込んだり、コダック式ムービーライトを差し込みますと露出不足になります。

同時録音

アクセサリーのテープレコーダー用接続コードを、テレコソケットに差し込んでおいてシャッターボタンを押せば、テープレコーダーが同時にスタートし、撮影中に録音されます。



撮影の前に

次の事項を必ずチェックしてください。

1. 電池の電圧の状態（P6参照）
2. EEロック・マニュアルダイヤルの状態（P14参照）
3. コマ速度ダイヤルの指標位置（P11参照）
4. 露出補正ダイヤルの指標位置（P16参照）
5. REW-FOW切替えつまみがFOWになっているかどうか
6. シャッターの開角度の状態（P18参照）
7. L-Rボタンが R になっているかどうか（P12参照）
8. ズームリングがマクロになっていないか

※通常の撮影の際には、OL-DE切替えつまみはどちらにセットしてあっても、撮影に差しつかえありません。

ご注意

■万一、フィルム送りが途中で止ったら…自動停止でもないのに、撮影の途中でフィルム送りが止った場合には、次の順序でチェックしてください。

1.ただちにカメラからフィルムカートリッジを取出します。(そうしないと単3乾電池が急速に消耗して、発熱したりするおそれがあります)

2.次に、カートリッジを抜いたままでシャッターボタンを押して、フィルム送りが作動するかどうかを確かめます。

3.電池チェックボタンで、電池の電圧をチェックします。

4.上記の2、3のチェックで異常がなければ、カートリッジの方に問題があるかもしれませんので、取出したカートリッジの巻取り軸を軽く時計方向に回しながら、フィルムを指先で押し込むようにして10cmぐらい送り進めてから、再びカメラに入れて(あるいは別のカートリッジを入れて)シャッターボタンを押してみます。

5.オーバーラップ、二重撮影、逆転撮影の際にフィルム送りに異常を感じたらカートリッジをカメラから取出した後に、一連の操作を最後まで行なってください。また、カートリッジは4の操作を行なってください。

6.それでもなおフィルム送りが作動しない場合には、カートリッジを取出し、ただちに購入されたカメラ店にご相談になるか、最寄りの弊社営業所またはサービスセンターに点検をご命じください。

■次のような場合は、シャッターボタンを押しても、そのままではフィルム送りは作動しません。

1.トリックレバーを前方に押して撮影して自動停止している時。(巻き戻しをしてください) P24、26、27参照

2.巻き戻しが終って自動停止しているとき。(REW-FOW切替えつまみをFOWの方へセットしてください)

3.巻き戻しで自動停止しないうちにシャッターボタンを離し、続いてFOWにしてシャッターボタンを押して自動停止したとき。(この場合は、フィルムをカメラから取出してもう1回巻き戻し操作を行なわないと作動しません。なお、巻き戻しの時は必ず自動停止するまでシャッターボタンを押してください)

■シャッター開角度にご注意

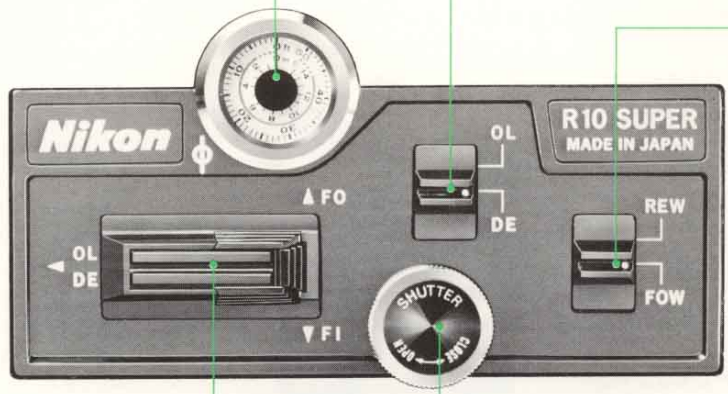
●特別な目的がないのにシャッター開角が中途で止まっていないかどうか、トリックレバーを操作する撮影では常に注意してください。

●二重撮影や逆転撮影でシャッター開角度を全閉または全開にするときには、表示窓でよく確認してからシャッターボタンを押すように心がけてください。P26、27参照

●シャッター開角度を変えて撮影する時には露出補正の方も忘れないでセットしてください。P19参照

撮影テクニック

R10スーパーは、開角度可変式シャッターとフィルム巻き戻し装置(約100コマまで)により、フェーディングをはじめ、オーバーラップや多重撮影、逆転撮影などの高度なシネテクニックを駆使することができます。これらの操作中でも、ファインダー内は明るい状態を保っております。なお、コントロール機構はすべてボディの片側に集められていますので、ファインダーを覗きながらでも指で簡単に位置を見つけることができます。



〈フェーディング〉

明るい画面をだんだん暗くしたり(フェードアウト)、暗い画面から次第に明るくしたり(フェードイン)して、種々の効果をあげる技術です。

〈パワーフェードアウト〉

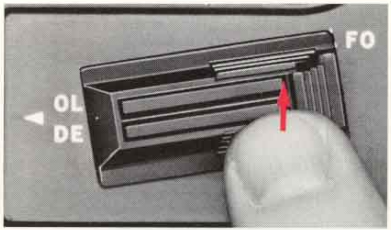
1. まず、普通にフィルムをスタートさせます。
2. トリックレバーをFOの方向に押し上げます。これにより、ファインダー内のシャッター開角度表示窓に赤い表示がだんだんと降りてきます。表示窓が全部赤色になったら、フェードアウトの完了です。

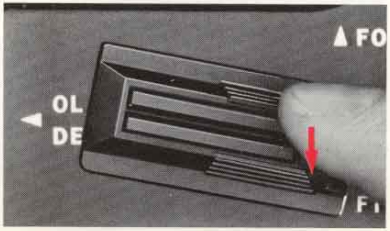
シャッターボタンとトリックレバーを離し、シャッター開角度をマニュアルで全開にもどしてください。

※開角度を全開にもどすことを忘れると、次の撮影でフィルムが露光しませんのでご注意ください。

〈パワーフェードイン〉

1. シャッター開角調節ダイヤルを反時計方向にいっぱいまで回してシャッター開角度を全閉にします。(この時、ファインダー内の表示窓は全部赤色です)
2. トリックレバーをF1の方向へ真下に押し下げ、シャッターボタンを押し込みます。これにより、表示窓内の赤い表示がだんだんと上って行きます。赤い表示が完全に消えるとフェードインは完了し、カメラは普通の撮影状態にもどりますので、レバーを離してください。





〈マニュアルフェードアウト〉

1. まず、普通にフィルムをスタートさせます。
2. シャッター開角調節ダイヤルを押しながら反時計方向に徐々に回します。これにより、シャッター開角表示窓に赤い表示がだんだんと降りてきます。表示窓が全部赤色になったら、フェードアウトの完了です。

   シャッターボタンを離し、シャッター開角度を全開にもどしてください。

※開角度を全開にもどすことを忘れると、次の撮影でフィルムが露光しませんのでご注意ください。

〈マニュアルフェードイン〉

1. シャッター開角調節ダイヤルを押しながら反時計方向にいっぱいまで回し、シャッター開角度を全閉にします。
2. フィルムをスタートさせ、シャッター開角調節ダイヤルを押しながら時計方向へ徐々に回します。これにより表示窓内の赤い表示がだんだんと上って行きます。赤い表示が完全に消えるとフェードインは完了し、カメラは普通の撮影状態にもどります。

〈オーバーラップ〉

これは、徐々に消えて行く画面(第一の画面)に重ねて、違う画面(第二の画面)を次第に現われるようにする方式です。

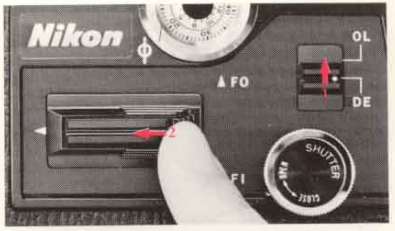
1. はじめに、OL-DE切替えつまみをOLにセットし、シャッター開角度を全開にしておきます。
2. シャッターボタンを押し、オーバーラップをさせたい第一の場面がきたら、トリックレバーを◁ OL/DE 方向(レンズ側)にいっぱいまで押し続けます。その間、フェードアウトが行なわれ、自動的に停止します。(毎秒18コマで約5.5秒間)
3. 次に、REW-FOWつまみをREWにセットします。
4. シャッターボタンを押しますと、フィルム巻き戻しが行なわれ、フェードアウトが始まったコマのところまでバックして、自動的に停止します。

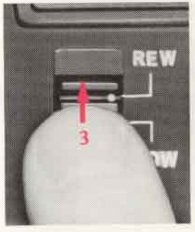
※シャッターボタンは、自動停止するまで押し続けてください。

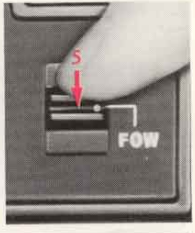
5. REW-FOWつまみをFOWに直します。
6. トリックレバーをあらかじめF1の方向へ真下に押し下げ、それからシャッターボタンを押して第二の画面を撮影します。

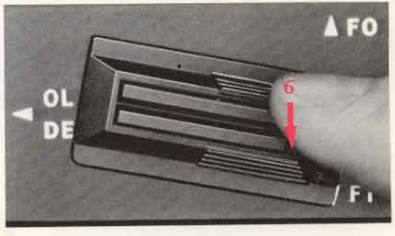
※フィルムカウンターが、両端から5目盛の間を指している時には、オーバーラップ撮影をしないでください。

※毎秒5.4コマのコマ速度では行なわないでください。









フェードアウト

フェードイン

オーバーラップ

〈二重撮影〉

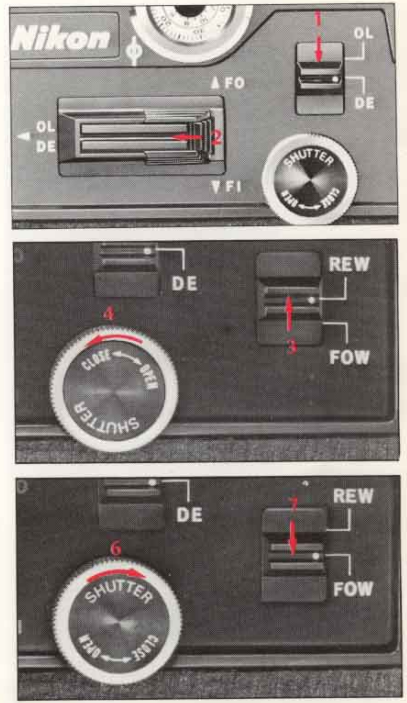
自動巻き戻し装置を使って、二重写しをすることができます。これは、想い出のシーンを作ったり、実景にタイトルの文字を重ねたりする時に用いられます。

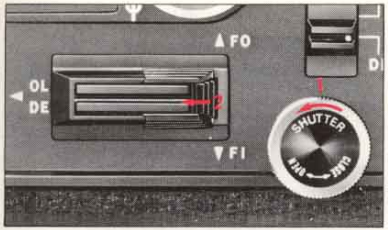
1. OL-DEつまみをDEにセットしておきます。
2. シャッターボタンを押し、重ね合わせたい最初の画面がきたら、トリックレバーを前方へいっぱいまで押し続けます。毎秒18コマで約5.5秒撮りますと、カメラは自動的に停止します。
3. REW-FOWつまみをREWにセットします。
4. レンズにキャップをするか、シャッター開角度を全閉にして、遮光します。
5. シャッターボタンを押すと、巻き戻しが行なわれ、二重撮影用の撮影を始めたコマで、自動的に止まります。
6. レンズキャップをはずすか、あるいはシャッター開角度を開いて、遮光を解除します。
7. REW-FOWつまみをFOWに切替えます。
8. これで二重写しにする被写体を撮影しますと、二重撮影ができます。(毎秒18コマで約5.5秒間)

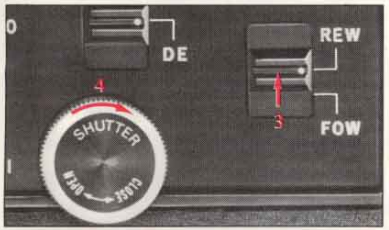
※この操作をくりかえすことにより、三重、四重等の多重撮影が行なえます。
※二重撮影の初めに重ならないコマが数コマ出ることがありますが、編集の時にカットしてください。
※二重撮影の適正露出は被写体の条件あるいは撮影効果により違ってきますので、いつも同じ露出補正をしていたのでは、よい結果が得られないことがあります。撮影の際、これらを十分に考慮して露出を決めてください。
※フィルムカウンターが、両端から5目盛以内を指している時には、二重撮影は行なわないでください。
※毎秒54コマのコマ速度では行なわないでください。

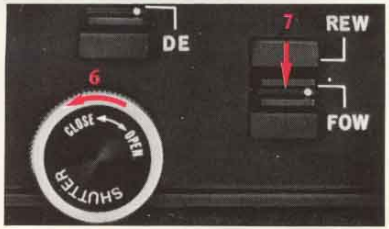
●スーパーインポーズ・タイトル撮影

二重撮影のテクニックを使って、簡単にスーパーインポーズ・タイトル撮影ができます。まず、バックとなる背景を自動露出で撮影します。一方タイトル文字を、黒地に白または黄色で書きます。そして、タイトル撮影前にあらかじめ標準反射板（18%反射率）を用いて、自動で露出を測定し、次にその値をマニュアルでセットしてタイトル撮影をします。この場合、自動露出で撮影しますと、タイトル文字が露出オーバーになりますのでご注意ください。









〈逆転撮影〉

逆転撮影は、コミカルな感じや奇術的なものなど、普通の撮影では不可能な、いくつもの特殊効果を生み出すことができます。

1. まず、レンズキャップをするか、シャッター開角度を全閉にして遮光します。
2. トリックレバーを前方にいっぱいまで押し込んだまま、シャッターボタンを押します。フィルムは、毎秒18コマの場合、約5.5秒で自動的に止まります。
3. REW-FOWつまみをREWにします。
4. レンズキャップをはずすか、シャッター開角度を全開にして、遮光を解除します。
5. シャッターボタンを押して写せば、逆転撮影ができます。フィルムは毎秒18コマ、約5.5秒間で、巻き戻し中に撮影します。自動停止するまで続けてください。
6. 再びレンズキャップをかぶせるか、シャッター開角度を全閉にします。
7. REW-FOWつまみをFOWに切替えます。
8. シャッターボタンを押して、撮影した部分だけフィルム送りをします。(毎秒18コマで約5.5秒)シャッター開角度を全開にし、普通の撮影状態にもどします。

※逆転撮影は自動的に約100コマになりますが、2の操作のとき、自動停止する前にシャッターボタンを離せば、約100コマより少なくすることができます。

※8の操作のとき、フィルム送りが撮影したコマ数にたらないと、逆転撮影の何コマかが次のシーンとダブってしまうことがあります。そこで、フィルム送りは100コマより少し多めにしておき、編集の時点でうまく処理するようにしてください。

※逆転撮影の初めに未露出の黒コマが数コマ出ることがありますが、編集の時にカットしてください。

※フィルムカウンターが、両端から5目盛以内を指しているときには、逆転撮影は行なわないでください。

※毎秒54コマのコマ速度では行なわないでください。

ストロボ撮影

このR10スーパーにはシンクロ接点が内蔵されていますので、ニコンスピードライトSB-3、SB-4などを使用し、1コマ撮りにて自動調光撮影ができます。その際の自動調光範囲は、SB-3の場合には6m～0.6m、SB-4の場合には4m～0.6mです。

1.撮影準備

①コマ速度を1コマ撮りにセットし、シャッター開角度を全開にします。

②スピードライトのシンクロコードの平ピンプラグの方を、先にスピードライトのシンクロコンセントへ、次に他端をカメラのシンクロソケットに差し込みます。

③スピードライトをカメラのアクセサリーシューに後方から十分に差し込んで、ロックナットを締めつけます。

2.自動調光撮影

①スピードライトの露出計算ダイヤルを回して、使用フィルム感度(ASA)をセットします。(各フィルムとも、昼光用感度でセットします。たとえばコダクロームII、さくらカラータイプA等はASA25に、エクタクローム160はASA100にセットします)

②SB-3の場合

撮影距離が6mから0.6mまでなら、セレクターの動標を橙色指標に合わせ、露出計算ダイヤル上で橙色指標が指す絞り値より2/3段オーバーの値を読み取ります。(ASA25の場合はf/2より2/3段オーバー、またはf/1.4より1/3段アンダー)

また絞りをできるだけ絞り込みたいときには、下表のようにセレクターをセットすれば、撮影距離によって絞りを小さくできます。ただし下表はASA25の時の値です。

撮影距離	セレクターのセット	カメラの絞り
6m～0.6m	橙色指標	f/2より⅔段オーバー、またはf/1.4より⅓段アンダー
4.5m～0.6m	黄色指標	f/2.8より⅔段オーバー、またはf/2より⅓段アンダー
3m～0.6m	青色指標	f/4より⅔段オーバー、またはf/2.8より⅓段アンダー

SB-4の場合

撮影距離が4mから0.6mまでなら、調光セレクターをオート側にセットし、露出計算ダイヤルの調光用色指標が指す絞り値より、同じく2/3段オーバーの値を読みとります。(ASA25の場合はf/2より2/3段オーバー、またはf/1.4より1/3段アンダー)

③EEロックマニュアルダイヤルをマニュアルにして、読みとった絞り値をセットします。

④スピードライトの電源スイッチをONにして発光準備を確認します。80%充電が完了したところでネオンパイロットランプが点灯しますので、点灯後数秒たってから撮影してください。シャッターボタンを押すことにより、距離に応じた自動調光ストロボ撮影(1コマ撮り)ができます。

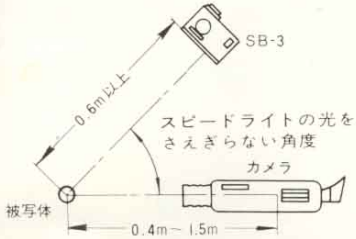
3.マニュアル撮影

①SB-3の場合はセレクター動標をMにセットし、SB-4の場合は調光セレクターをMの文字が現われるようにセットします。

②次に露出計算ダイヤルで使用フィルム感度をセットし、撮影距離に対応する絞り値を読み取り、カメラの絞りをその絞り値より2/3段オーバーにセットして撮影します。

〔参考〕

SB-3の場合、撮影距離が1.5mより近いマクロ撮影では、レンズ鏡筒の先端で光がさえぎられることがありますので、下図の要領で撮影してください。このときも、自動調光で、ほぼ適正露出が得られますが、被写体の反射率や、背景条件等によって、調光にズレが生じたら、絞り値を補正してください。



※撮影にあたっては、ニコンスピードライトSB-3、SB-4の使用説明書により、使い方を十分にご理解ください。

※被写体の反射率や背景条件等によっては、調光に多少のズレを生ずることがあります。

※スピードライト使用時には、フィルターキーは差し込まないでください。

※SB-2は、ガンカプラーAS-2を用い取付けられますが、シンクロ回路がショートしますので、使用できません。

被写界深度表

（単位m）

f=7mm　焦点距離

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	3.01 ～∞	2.14 ～∞	1.57 ～∞	1.14 ～∞	0.85 ～∞	0.63 ～∞	0.45 ～∞	0.38 ～∞
10	2.36 ～∞	1.80 ～∞	1.38 ～∞	1.04 ～∞	0.80 ～∞	0.61 ～∞	0.48 ～∞	0.37 ～∞
5	1.94 ～∞	1.55 ～∞	1.24 ～∞	0.96 ～∞	0.76 ～∞	0.58 ～∞	0.47 ～∞	0.37 ～∞
4	1.78 ～∞	1.45 ～∞	1.18 ～∞	0.93 ～∞	0.74 ～∞	0.57 ～∞	0.46 ～∞	0.36 ～∞
3	1.56 ～∞	1.31 ～∞	1.09 ～∞	0.87 ～∞	0.70 ～∞	0.56 ～∞	0.45 ～∞	0.36 ～∞
2	1.26 ～5.51	1.10 ～27.8	0.94 ～∞	0.78 ～∞	0.65 ～∞	0.52 ～∞	0.43 ～∞	0.35 ～∞
1.5	1.06 ～2.76	0.94 ～4.47	0.83 ～32.3	0.71 ～∞	0.60 ～∞	0.50 ～∞	0.42 ～∞	0.34 ～∞

f=10mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	5.92 ～∞	4.18 ～∞	3.01 ～∞	2.14 ～∞	1.56 ～∞	1.12 ～∞	0.84 ～∞	0.61 ～∞
10	3.77 ～∞	2.99 ～∞	2.35 ～∞	1.79 ～∞	1.37 ～∞	1.03 ～∞	0.79 ～∞	0.59 ～∞
5	2.76 ～31.4	2.32 ～∞	1.93 ～∞	1.54 ～∞	1.22 ～∞	0.95 ～∞	0.75 ～∞	0.56 ～∞
4	2.43 ～12.0	2.09 ～∞	1.77 ～∞	1.44 ～∞	1.16 ～∞	0.91 ～∞	0.73 ～∞	0.55 ～∞
3	2.04 ～5.89	1.79 ～10.3	1.55 ～∞	1.30 ～∞	1.07 ～∞	0.86 ～∞	0.69 ～∞	0.54 ～∞
2	1.53 ～2.92	1.40 ～3.67	1.25 ～5.60	1.08 ～29.8	0.93 ～∞	0.76 ～∞	0.63 ～∞	0.50 ～∞
1.5	1.23 ～1.94	1.14 ～2.24	1.05 ～2.81	0.93 ～4.62	0.81 ～42.1	0.69 ～∞	0.59 ～∞	0.48 ～∞

f=15mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	12.9 ～∞	9.07 ～∞	6.50 ～∞	4.57 ～∞	3.29 ～∞	2.32 ～∞	1.71 ～∞	1.20 ～∞
10	5.67 ～43.9	4.79 ～∞	3.97 ～∞	3.16 ～∞	2.50 ～∞	1.90 ～∞	1.47 ～∞	1.08 ～∞
5	3.63 ～8.08	3.25 ～11.0	2.86 ～21.4	2.42 ～∞	2.01 ～∞	1.61 ～∞	1.30 ～∞	0.99 ～∞
4	3.08 ～5.74	2.80 ～7.06	2.51 ～10.2	2.17 ～31.8	1.84 ～∞	1.50 ～∞	1.22 ～∞	0.94 ～∞
3	2.45 ～3.87	2.28 ～4.42	2.08 ～5.47	1.84 ～8.54	1.60 ～34.8	1.34 ～∞	1.12 ～∞	0.88 ～∞
2	1.75 ～2.34	1.66 ～2.53	1.55 ～2.84	1.42 ～3.47	1.27 ～4.95	1.11 ～14.2	0.95 ～∞	0.78 ～∞
1.5	1.36 ～1.68	1.30 ～1.77	1.24 ～1.91	1.15 ～2.17	1.06 ～2.66	0.94 ～4.06	0.83 ～12.2	0.70 ～∞

（単位m）

f=20mm 焦点距離

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	22.9 ～∞	16.0 ～∞	11.4 ～∞	8.03 ～∞	5.75 ～∞	4.03 ～∞	2.95 ～∞	2.04 ～∞
10	6.97 ～17.7	6.17 ～26.6	5.35 ～∞	4.47 ～∞	3.66 ～∞	2.89 ～∞	2.29 ～∞	1.70 ～∞
5	4.11 ～6.38	3.82 ～7.25	3.49 ～8.84	3.10 ～13.2	2.69 ～39.0	2.25 ～∞	1.87 ～∞	1.46 ～∞
4	3.41 ～4.84	3.21 ～5.31	2.98 ～6.12	2.68 ～7.93	2.37 ～13.1	2.02 ～∞	1.71 ～∞	1.37 ～∞
3	2.66 ～3.44	2.54 ～3.68	2.39 ～4.04	2.20 ～4.76	1.99 ～6.23	1.74 ～11.7	1.50 ～∞	1.23 ～∞
2	1.84 ～2.19	1.78 ～2.28	1.71 ～2.41	1.61 ～2.64	1.50 ～3.04	1.35 ～3.92	1.21 ～6.18	1.03 ～∞
1.5	1.41 ～1.60	1.38 ～1.65	1.33 ～1.72	1.27 ～1.83	1.20 ～2.01	1.11 ～2.36	1.01 ～3.01	0.88 ～5.65

f=30mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	51.0 ～∞	35.7 ～∞	25.5 ～∞	17.9 ～∞	12.8 ～∞	8.92 ～∞	6.49 ～∞	4.46 ～∞
10	8.36 ～12.5	7.80 ～13.9	7.17 ～16.5	6.40 ～22.8	5.59 ～46.9	4.70 ～∞	3.92 ～∞	3.07 ～∞
5	4.55 ～5.55	4.38 ～5.82	4.17 ～6.23	3.90 ～6.97	3.59 ～8.27	3.19 ～11.5	2.81 ～22.3	2.34 ～∞
4	3.71 ～4.34	3.59 ～4.51	3.45 ～4.75	3.26 ～5.17	3.04 ～5.86	2.75 ～7.31	2.46 ～10.6	2.10 ～41.9
3	2.83 ～3.19	2.76 ～3.28	2.68 ～3.41	2.56 ～3.62	2.42 ～3.94	2.24 ～4.55	2.04 ～5.64	1.78 ～9.41
2	1.92 ～2.08	1.89 ～2.12	1.85 ～2.17	1.79 ～2.26	1.72 ～2.38	1.63 ～2.59	1.52 ～2.92	1.37 ～3.69
1.5	1.46 ～1.55	1.44 ～1.57	1.41 ～1.60	1.38 ～1.64	1.34 ～1.71	1.28 ～1.81	1.21 ～1.97	1.11 ～2.29

f=40mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	91.0 ～∞	63.7 ～∞	45.5 ～∞	31.8 ～∞	22.7 ～∞	15.9 ～∞	11.5 ～∞	7.91 ～∞
10	9.00 ～11.3	8.62 ～11.9	8.17 ～12.9	7.58 ～14.7	6.91 ～18.0	6.10 ～27.4	5.32 ～∞	4.38 ～∞
5	4.73 ～5.30	4.63 ～5.44	4.49 ～5.64	4.30 ～5.96	4.07 ～6.46	3.77 ～7.38	3.45 ～8.98	3.02 ～14.0
4	3.83 ～4.19	3.75 ～4.28	3.66 ～4.40	3.54 ～4.60	3.38 ～4.89	3.17 ～5.41	2.94 ～6.22	2.62 ～8.31
3	2.90 ～3.11	2.86 ～3.16	2.80 ～3.22	2.73 ～3.33	2.63 ～3.48	2.51 ～3.74	2.35 ～4.12	2.14 ～4.95
2	1.95 ～2.05	1.93 ～2.07	1.91 ～2.10	1.87 ～3.15	1.83 ～2.21	1.76 ～2.31	1.68 ～2.46	1.57 ～2.74
1.5	1.47 ～1.53	1.46 ～1.54	1.45 ～1.56	1.43 ～1.58	1.40 ～1.62	1.36 ～1.67	1.31 ～1.75	1.24 ～1.89

（単位m）

f=50mm 焦点距離

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	139 ～∞	97.3 ～∞	69.5 ～∞	48.6 ～∞	34.7 ～∞	24.2 ～∞	17.6 ～∞	12.1 ～∞
10	9.31 ～10.8	9.04 ～11.2	8.71 ～11.7	8.25 ～12.7	7.71 ～14.2	7.02 ～17.2	6.31 ～23.6	5.40 ～61.1
5	4.82 ～5.20	4.74 ～5.29	4.65 ～5.41	4.51 ～5.61	4.34 ～5.89	4.11 ～6.38	3.85 ～7.11	3.48 ～8.77
4	3.88 ～4.13	3.83 ～4.18	3.77 ～4.26	3.68 ～4.38	3.56 ～4.56	3.40 ～4.85	3.22 ～5.26	2.95 ～6.14
3	2.93 ～3.07	2.90 ～3.10	2.86 ～3.15	2.81 ～3.22	2.74 ～3.31	2.64 ～3.47	2.53 ～3.68	2.36 ～4.09
2	1.97 ～2.03	1.95 ～2.05	1.94 ～2.07	1.91 ～2.10	1.88 ～2.14	1.83 ～2.21	1.77 ～2.29	1.68 ～2.46
1.5	1.48 ～1.52	1.47 ～1.53	1.46 ～1.54	1.45 ～1.56	1.43 ～1.58	1.40 ～1.62	1.36 ～1.67	1.31 ～1.76

f=60mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	205 ～∞	143 ～∞	102 ～∞	71.5 ～∞	51.0 ～∞	35.7 ～∞	25.9 ～∞	17.7 ～∞
10	9.52 ～10.5	9.32 ～10.8	9.07 ～11.1	8.73 ～11.7	8.30 ～12.5	7.74 ～14.1	7.13 ～16.6	6.30 ～23.6
5	4.87 ～5.14	4.82 ～5.20	4.75 ～5.28	4.65 ～5.41	4.52 ～5.59	4.34 ～5.89	4.13 ～6.30	3.83 ～7.14
4	3.92 ～4.09	3.88 ～4.13	3.83 ～4.18	3.77 ～4.26	3.68 ～4.38	3.56 ～4.56	3.42 ～4.81	3.20 ～5.30
3	2.95 ～3.05	2.93 ～3.07	2.90 ～3.10	2.86 ～3.15	2.81 ～3.21	2.74 ～3.32	2.65 ～3.45	2.51 ～3.70
2	1.98 ～2.02	1.97 ～2.03	1.95 ～2.05	1.93 ～2.07	1.91 ～2.10	1.87 ～2.15	1.83 ～2.20	1.76 ～2.31
1.5	1.49 ～1.51	1.48 ～1.52	1.47 ～1.53	1.46 ～1.54	1.44 ～1.56	1.42 ～1.59	1.39 ～1.62	1.35 ～1.68

f=70mm

撮影距離＼絞り	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16
∞	275 ～∞	192 ～∞	137 ～∞	96.1 ～∞	68.6 ～∞	47.9 ～∞	34.8 ～∞	23.8 ～∞
10	9.63 ～10.4	9.48 ～10.6	9.28 ～10.8	9.01 ～11.2	8.66 ～11.8	8.19 ～12.8	7.67 ～14.3	6.92 ～17.7
5	4.90 ～5.10	4.86 ～5.15	4.80 ～5.21	4.73 ～5.31	4.62 ～5.44	4.48 ～5.65	4.31 ～5.94	4.05 ～6.49
4	3.93 ～4.07	3.91 ～4.10	3.87 ～4.14	3.82 ～4.20	3.75 ～4.28	3.65 ～4.42	3.53 ～4.60	3.35 ～4.93
3	2.96 ～3.03	2.94 ～3.06	2.92 ～3.08	2.89 ～3.12	2.85 ～3.16	2.79 ～3.24	2.72 ～3.34	2.61 ～3.52
2	1.98 ～2.02	1.97 ～2.03	1.96 ～2.04	1.95 ～2.06	1.93 ～2.08	1.90 ～2.11	1.86 ～2.16	1.80 ～2.24
1.5	1.49 ～1.51	1.48 ～1.52	1.48 ～1.52	1.47 ～1.53	1.45 ～1.55	1.44 ～1.57	1.41 ～1.60	1.38 ～1.64

※表の被写界深度はフィルム面(カメラ側面に標示されている⌀印の位置)からの値です。

カメラの手入れ

カメラは、他の精密機器と同様、基本的な手入れを怠らないようにしてください。ニコンR10スーパーは堅牢であるとはいえ、ショックや、熱、水、あるいは誤用などには、十分気をつけてください。次の事項をよく守り、カメラをいつもベストコンディションにしておきましょう。

《保管》

カメラを使用しない時は、ケースに入れてホコリがつかないようにしてください。レンズ表面に、ホコリの付着を防ぐため、保管する時は必ずレンズキャップをつけましょう。高温、低温の場所、あるいは湿気のある場所は保管に適していませんから避けてください。

フィルムを、カメラの中に長期間入れたままにしないでください。また、電池も同様に取り出しておきましょう。

《レンズ》

レンズ表面には指紋をつけないようにし、ホコリもできるだけ付着させないように注意してください。ホコリは、ブロワーブラシか、レンズ用のティシューで取り除きます。布切れや、普通のティシューは、絶対に使用しないでください。汚れや指紋がとれない時は、レンズ用のティシューにアルコールかレンズクリーナーをしめらせて、ふき取ってください。レンズクリーナーでも、マウント内にしみ込みますと、レンズをダメにすることがありますから、気をつけましょう。

《水気を避ける》

水気には十分ご注意ください。水のそばでカメラを使用する時には、しぶきがかからないようにしましょう。特に海辺では気をつけてください。

《事前点検》

旅行や特に大切な撮影の際には、前もってカメラをご点検ください。ことに念入りに行ないたい場合には、当社営業所・サービスセンターにご用命ください。

《その他》

海岸での直射日光、車のリアウインドウの下やトランクの中など、高温になる場所にはカメラを放置しないでください。

アクセサリー

●

〈ハードケース〉
レンズフードをつけたまま、カメラを入れることができ、また、予備の電池や各種の付属品などもいっしょに収納できます。外側には2つのポケットがあり、予備のカートリッジや、その他の小ものをしまえます。

〈ソフトケース〉
カメラ本体用のケースです。

〈スライドコピーアダプター　ES-3〉
マクロ撮影でこのアダプターを使いますと、35mm判のカラー、白黒スライドの複写ができます。

〈67mmねじ込み式レンズキャップ〉

〈ラバーレンズフード　HR-3〉
不要な光をさえぎったり、また、レンズ保護のためにもお勧めします。72mmのフィルターや、レンズキャップを取り付けることもできます。

〈フィルター〉
レンズフードHR-3といっしょに、72mmのねじ込み式フィルターが使えます。
(偏光フィルターはご使用になれません。)

〈テレコシンクロコード　EA-2〉
シンクロソケットとテープレコーダーとを接続し、撮影と同時に録音ができます。

〈クローズアップレンズ　EC-2〉
レンズの先端に取り付けて、ほぼ等倍までの接写ができます。せまくて近づきにくい場所でも、接写撮影をすることができます。

〈リモートコントロールユニット　EA-1〉
野鳥の撮影など、接近しにくい被写体を撮るときなどにお使いいただけます。

仕様

●

フィルム
スーパー8カートリッジフィルム使用
ASA感度自動セット式
ASA感度：昼光　10～400　人工光　16～640

レンズ
シネニッコールズームf＝7～70mm
(ズーム比10X)F1.4
多層膜コーティング
レンズ面までの超接写可能

ズーミング
電動パワーズーミング
速度可変(高速約4秒、低速約10秒)
ズーミングレバーによる手動ズーミング可能

フィルム給送
高性能マイクロモータによる電動式
(単3乾電池6本使用)

撮影コマ速度
毎秒18、24、54コマおよび1コマ

シャッター開角度
全開(160°)、80°、40°全閉(0°)に調節可能
開角度はファインダー内目盛付
½(80°)、¼(40°)

フェーディング装置(FI、FO)
シャッター開角度可変式フェーディング装置でなめらかなパワーフェードイン、フェードアウトが可能
またマニュアルフェーディングも可能

オーバーラップ撮影(OL)
フェーディング装置と連動したパワーオーバーラップ撮影可能

多重撮影(DE)
最大約100コマまでの多重撮影可能

逆転撮影
最大約100コマまでの逆転撮影可能

露出計
TTL測光による完全自動サーボEE ASA感度はカートリッジによるオートセット
デイライト：ASA10,16,25,40,64,100,160,250,400
タングステン：ASA16,25,40,64,100,160,250,400,640

露出補正
2段オーバーから1段アンダーまで補正可能

ファインダー
一眼レフ式
倍率：0.53～5.32倍
スプリット式焦点板付
視度調節：－5～＋3DP
アイピースシャッター付、アイカップ付

ファインダー内表示
EE絞り目盛(露出過不足マーク付)
シャッター開角度表示
撮影終了表示

フィルムカウンター
自動復元50等分目盛順算式

グリップ
固定式　電源電池収納兼用

シャッターレリーズ
エレクトロ・マグネチック・トリガー方式　安全ロック、ランニングロック付

リモコンソケット
リモコン装置、その他付属品との作動回路用コネクター

電池チェック
発光ダイオード(LED)表示式

カラーフィルター
分光感度変換用タイプAフィルター内蔵
カートリッジとムービーライトに連動し、EEとも連動

アタッチメントサイズ
67mm(フィルターは72mm使用。
ただしラバーフードHR-3を併用)

ライティングマウント
内蔵フィルターと連動するコダック式マウント

テレコソケット
同時録音用

シンクロソケット
ストロボ用

撮影終了表示装置
フィルム終了と同時にファインダー内に赤マーク表示

大きさ・重量
70×200×260mm　1.93kg

保証書について

「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客さまに直接お渡しすることになっております。「ご愛用者氏名および住所」「ご購入年月日」「ご購入店」がすべて記入された「保証書」を必ずお受取りください。
「保証書」をお受取りになりませんと、ご購入後1年以内の保証修理を受けられないことになりますのでご注意ください。もしお受取りにならなかった場合には、直ちにご購入店に請求してください。
「ご愛用者アンケートカード」は、必要事項をご自身でご記入のうえ、投函してください。

カメラ番号・保証番号のメモ

保証書番号	購入年月日
No.	年　月　日
ボディ番号	ボディ機種
No.	
住所	
氏名	

★本製品の仕様および外観は、改良などのため変更することがあります

Nikon 日本光学工業株式会社

本社●100・東京都千代田区丸の内3-2-3・富士ビル 電話＝東京(03)214-5311(大代表)

サービス課●143・東京都大田区大森北6-19-22 電話＝東京(03)764-2601(代表)
大阪営業所●542・大阪市南区安堂寺橋通2-26・大阪写真会館 電話＝大阪(06)262-3271(代表)
名古屋営業所●450・名古屋市中村区広井町3-88・大名古屋ビル 電話＝名古屋(052)563-2881(代表)
広島営業所●730・広島市袋町3-19・広島東邦生命ビル 電話＝広島(0822)48-1216(代表)
福岡営業所●810・福岡市中央区天神2-12-1・天神ビル 電話＝福岡(092)721-3561(代表)
仙台営業所●980・仙台市中央3-2-1・仙台清水ビル 電話＝仙台(0222)27-1237(代表)
札幌営業所●060・札幌市中央区大通西1-13・大通ビル 電話＝札幌(011)231-7896(代表)
新潟営業所●951・新潟市西堀通5-855・コーリンビル 電話＝新潟(0252)22-1461(代表)
横浜営業所●220・横浜市西区北幸1-1-13・横浜駅前ビル 電話＝横浜(045)312-1101(代表)
東京サービスセンター●100・東京都千代田区丸の内2-5-2・三菱ビル 電話＝東京(03)215-0561・0562
東京サービスセンター修理部●100・東京都千代田区丸の内1-2-1・東京海上ビル 電話＝東京(03)212-1608・1609
大阪・梅田サービスステーション●530・大阪市北区芝田町45・梅田エステートビル 電話＝大阪(06)372-3385・3602

(75.10.C) &-7